

2001年度

ムーブメント教育夏期セミナー

発達と療育を援助する実践講座

＜徳島会場＞

期 日：2001年7月28日（土）～29日（日）

会 場：徳島県立二十一世紀館（文化の森）

多目的活動室

主催：日本ムーブメント教育・療法協会

# 徳島会場

## 発達と療育を援助する実践講座

| 7月28日(土)       |                                         | 徳島県立二十一世紀館多目的活動室 |
|----------------|-----------------------------------------|------------------|
| 13:00          | <受付>                                    | 13:20 オリエンテーション  |
| 13:30<br>14:30 | <実技><br>動きをとおして子どもたちに喜びを①               | 片岡 恵子<br>新居見智恵   |
| 14:45<br>15:45 | <実践報告><br>徳島支部での実践<br>鳴門教育大学附属養護学校での実践  | 高曽根有紀<br>国広 松代   |
| 16:00<br>17:00 | <講演><br>知覚・運動レベルを高めるムーブメント<br>～MEPAの活用～ | 小林 芳文            |

| 7月29日(日)       |                           | 徳島県立二十一世紀館多目的活動室 |
|----------------|---------------------------|------------------|
| 9:30           | <受付>                      | 9:40 オリエンテーション   |
| 9:45<br>10:45  | <実技><br>動きをとおして子どもたちに喜びを② | 猪子秀太郎<br>ほか      |
| 11:00<br>12:00 | <実技><br>算数・国語ムーブメント       | 長谷川英子            |
|                | <昼食>                      |                  |
| 13:00<br>14:00 | <実践報告><br>教科学習にムーブメントを生かす | 仁科 由美            |
| 14:15<br>15:15 | <質疑応答>                    |                  |
| 15:30<br>16:30 | <実技><br>遊具の活用 ～参加者とともに～   | 小林 芳文            |

---

# ムーブメント遊びを通して 動きの楽しさを知る

ねむのき療育園 片岡 恵子・新居見 智恵

---

## 1. フリームーブメント

## 2. 走行ムーブメント

## 3. いろいろな遊具を使って

- ・ スカーフ

- ・ パイプ

# 徳島支部での実践 ～子ども達との一体感を目指して～

徳島県立国府養護学校教諭 高曾根有紀

## 1. 実態と指導目標の設定

日時：毎月 第3土曜日 場所：ねむのき療育園 ホール

対象：就学前の知的障害児7名

MEPA発達プロフィール表；第4ステージ（発達年齢19～36ヶ月）

知覚運動や身体意識のプログラムが中心

～14:10 フリームーブメント  
14:10～15:30 走行ムーブメント  
集合・呼名  
遊具を使ったムーブメント①  
遊具を使ったムーブメント②  
15:30～15:45 担当者と保護者の話し合い  
16:00～16:30 セッションの反省会

①今日のセッションで楽しかったこと、発見したこと  
②今日のセッションでの反省点（こうすればよかった）  
③疑問に思ったこと、質問したいこと  
④担当者の感想や、質問に対する答え

- 音楽やリズムに合わせて「歩く・走る・止まる・跳ぶ・転がる」その他基本的な動きの要素を取り入れる。
- 好きなこと、得意なことを中心にして課題となる活動を組み立て、最後に満足感を感じて終了できるように配慮する。
- 活動内容を視覚的に分かりやすく伝える。
- 毎回変化を持たせながらも基本の動きを反復することで、子ども達が音と動きの関係に気づき積極的に体を動かし、「一人でやってみよう」という自信につなげることをねらう。
- 子どもの自発的な動作があれば取り上げ、みんなで模倣する。自分が中心になり認められた喜び、友達を真似する楽しさやおもしろさを感じてほしい。

### <走行ムーブメントでの目標>

- 聴覚・視覚－運動連合を養う
- 身体意識を高める
- 動的バランス・静的バランスを能力を高める
- リズムや音を意識して活動する
- 注意・集中の持続
- ことば（身体・動き・空間）を意識する ～指示の理解につなげる

## 2. テーマは「視覚的に、わかりやすく伝える」

- 色や物の名前は言葉だけでなく絵カードを見せてわかりやすく
- 待つときは座る（順番を知らせる）
- ここからここまで・・・始まりと終わりを明確に
- 達成できたら少しずつ変えてバリエーションを豊富に

## 3. 音楽について

- 今までに使用した楽器は・・・

＜おいて演奏するもの＞

- ・ピアノ（向きが決まっていて動かしにくい。弾いた音が消える。強弱が容易に出せる。音の幅が広い）
- ・キーボード（色々な音が出る。鍵盤が軽く、初めての人でも効果音が出せる。音の幅が広い）

＜移動しながら演奏できるもの＞

- ・ヴァイオリン（独特の音色と雰囲気。様々な奏法で珍しい音が出せる）
- ・アコーディオン（独特の音色と雰囲気。身軽さに欠ける。蛇腹の部分に興味を示す子は多い）
- ・ギター（独特の音色と雰囲気。様々な奏法ができる。）

- 伴奏者の視線の位置は？

- 動きに音楽を、音楽に動きを・・・

---

＜実践報告＞

**思いやりの心を育てるムーブメント活動**

鳴門教育大学学校教育学部附属養護学校 小学部主事 国広松代

---

1 はじめに

(1) 鳴門教育大学学附属養護学校の概要

(2) 児童生徒のコミュニケーション上の課題

2 実践

(1) 「思いやりの心」を育てる取り組み

(2) 事例を通して

(3) 実践の様子 (VTR)

3 結果と今後の課題

4 終わりに

## <講演>知覚・運動レベルを高めるムーブメント ～MEPAの活用～

横浜国立大学教授・協会顧問 小林 芳文

身体の動きは、他の諸機能の発達と深いつながりを持ち、しかも発達の流れを支える軸である。子どもの知的（認知的）発達に幾つかの段階（ステージ）があるように、運動発達にも同じような段階がある。私の研究によると（1985）、子どもは乳児初期から日常生活に不自由のない動きができるようになる7歳頃の学童期までに、7段階の発達の垣根を超えていくことが解った。つまり、学校はこの段階までに育ってきた運動発達をベースに教育を組んでいるが、動きのぎこちない子どもの身体運動の指導は、いわゆる「基本運動」が十分できていないことが多いので、この機会に十分に取り入れた活動が必要となる。それは伝統的な体育ではない遊びの要素を含んだ活動を取り入れていくことで、より子どもの活動意欲を育て、運動発達のみならず心理的諸機能までも助長できる。その主要な方法にムーブメントが位置づく。

ここでは、特に児童の運動発達の一般的傾向について触れ、動きづくりのみならず言語や社会・情緒機能の働きも関わる傾向について、MEPA（ムーブメントプログラムアセスメント）と連携しながら知覚・運動を促す課題を事例を交えて進めたい。

### 1. 子どもの運動発達におけるステージとその発達段階

#### 1) ギャラヒュー（Gallahue）による子どもの運動発達

子どもは、6～7歳までに次の三つの段階を踏む。

「反射運動の段階」（新生児期）

「初歩的運動の段階」（3歳頃まで）

「基本的運動の段階」（6～7歳まで）

#### 2) MEPAによる運動発達ステージと発達課題

第1ステージ（反射ステージ）0～6か月 定額の促進、寝返りの促進

第2ステージ（萌芽ステージ）7～12か月 立ち直り・保護伸展反応の促進、初歩的移動の促進

第3ステージ（歩行立ステージ）13～18か月 独り立ちの促進、独り歩きの促進

第4ステージ（粗大運動立ステージ）19～36か月 粗大な姿勢動作の促進、初歩的統合運動の促進

第5ステージ（調整運動ステージ）37～48か月 調整力の促進、優位性運動の促進

第6ステージ（知覚運動ステージ）49～60か月 知覚運動、連合運動の促進

第7ステージ（複合応用運動ステージ）61～72か月 創造的運動の促進

### 3) 発達の領域

行動を支える「からだ、あたま、こころ」の3領域

つまり

「身体機能」「認知機能」「社会・情緒機能」

## 2. ムーブメント教育・療法のためのアセスメント

### 1) MEPA (0歳～6歳レベル、発達遅滞児)

「障害児の発達指導ステップガイド」との連携

### 2) MEPAについて

このアセスメントは、単に運動発達年齢を知る発達診断ではなく、アセスメントの結果を手がかりにムーブメント教育プログラムの編成を意図するものである。

### 3) MEPAの内容

#### ①アセスメントの背景

フロスティック(Frostig)は、子どもの適切なムーブメント教育を実施するために、発達などの状態をきちんと把握することの必要性を述べ、以下のような観察を勧めている。

すなわち、①技巧、②移動技能、③姿勢、④語彙、⑤関係言語および比較言語、⑥指示の理解、⑦記憶、⑧空間を使用する能力、⑨道具(遊具を含む)の使用、⑩個々人の活動(反応)の度合いである。

これらの観察事項でも明らかなように、運動技能面に加え、言語の理解や表出度、そして情緒・社会性発達の観察である。つまり、子どもを教育するために、感覚や運動領域の項目だけ観察するのではなく、言語や社会性という知的・心理的側面から観察をしている点にこの教育の特殊性がある。

### 4) MEPAの構成

MEPAは、ムーブメント教育の内容を段階系列化してプログラム編成に直結するように行動の3分野(運動・感覚、言語、社会性)、6領域(姿勢・移動・操作、言語理解・表出言語、情緒社会性)構成されている。

### 5) MEPAのチェックステージ

MEPAの構成において他の1の特色は、子どもの暦年齢で生後0か月から72か月までの範囲に子どもの運動発達を系列化し、その中を7ステージに分割し、そのステージ内での各段階ごとのアセスメントを行うことである。この7ステージのどこに子どもが位置するのか、日常の動きや行動でほぼ把握できるが、チェックされたステージで、具体的にどのようなムーブメントプログラムを考えたらよいかは、上述のような運動発達課題に基づいている。

## 3. MEPAの整理

### 1) 設定のしかた

### 2) プロフィール表の作成

### 3) クロスインデックス表の活用

身体意識スキルならびに運動属性(調整力等)は、ムーブメント教育の達成課題のなかで



も重要なものである。これらのスキル向上の手がかりを得るため、各領域でそれらにかかわる項目を整理しなおしたものが、このクロスインデックス表である。

つまり、子どもの身体意識スキル（身体像・身体図式・身体概念）の促進を考える場合には、「身体意識クロスインデックス表」の項目番号を重点的に指導プログラムのなかに取り入れることにより可能となり、また同じように、調整力など運動属性クロスインデックス表のなかの項目番号の事項を重点的に取り入れることにより、調整力、筋力、持久力などの機能を助長させるための対応が可能となる。

#### 4) 発達の把握と指導のためのMEPAの評価

### 4. 障害児にMEPAを活用するために

#### 1) 評価にあたって

評価は、プロフィールやクロスインデックスを活用し、大まかな発達水準や領域間の格差、また良好な点を把握することである。プログラム作りの基本は、その子の得意な領域や側面を伸ばし、それを生かしながら弱い面や未発達な部分を援助することである。つまり、子どもの表情に表される快適さや笑顔、そしてそれを引き出す運動的活動を足がかりに、不足面を補うことである。それにはMEPAから得られた情報や他の資料を勘案し、適切な運動課題とその組み合わせを選ばなければならない。

#### 2) 課題設定に当たって

課題設定は具体的に、発達水準にあったふさわしい課題、各項目の観察から浮かび上がった必要課題やできかかっていること、それらを子どもの技能・能力（身体運動能力、言語、社会性）興味や反応、そして年齢などに応じ、また場所や設定、教具・遊具を工夫して実施することである。つまり子どもとそのねらいに応じ、指導方法や指導形態を柔軟に考える。また言語や情緒・社会的なかわりを盛り込みながらムーブメント教育プログラムを行なうことが重要である。

なおプログラムの適否や子どもの変化を評価するために、区切りのよいところで再びMWP Aをつけてみるとよい。これにより前のMEPAの結果と比較することも可能となり、よりきめの細かな観察が可能となる。

MEPAには、検査として行なう項目と日常観察でつけるものがある。評価場面では、どもを遊ばせながら子どもが意欲をもって無理なくできるよう留意することである。指示が理解できないような場合、まねさせて行なわせたり、また一度介助し、さらに指示して様子を見ることもよい。この場合は（一）をつけ備考として実施の様子を記録し資料にするとよい。

5. 中度障害児の指導の実際を考える。

MEPAプロフィールから指導の流れを探る。

1) 発達が第4ステージ程度の子どもの場合

2) 第5、第6ステージ程度の子どもの場合

---

<ムーブメント実技>

## 動きを通して子どもたちに喜びを②

鳴門教育大学学校教育学部附属養護学校 小学部教諭 猪子秀太

---

### 1. 道具を使わないリズム運動

### 2. ムーブメント遊具を取り入れたリズム運動

・フープ

・ロープ

・スカーフ

・パラシュート

・その他

# MEMO

## <ムーブメント実技>算数ムーブメント

横浜国立大学教育人間科学部附属養護学校 小学部 長谷川 英

本校の小学部では、個別の国語・算数と平行して集団の算数・国語ムーブメントを行っています。今回は、小学部の子どもたちが大好きなボックスと帆（ハンプ）を使って、会場の皆さんと一緒にムーブメントの実技を行います。能力に幅のある集団での実践を想定し、課題別に3グループを設定し、2種類のムーブメント教材の特性を生かしながら展開できればと考えています。

### ボックスムーブメント

| 課題のねらい           | 学習活動                                                                   |
|------------------|------------------------------------------------------------------------|
| ■方向性             | ▼ピックボックスダンス<br>・「右」「前」の指示を聞いて動く                                        |
| ■遊びの発見           | ▼フリームーブメント                                                             |
| ■長さの組み合わせ        | ▼3個の箱を指定された高さに積み上げる                                                    |
| ■容積・体積           | ▼小さい箱をたくさん入れる<br>・できるだけたくさんの箱の中に入れる<br>・いくつ入っていたかを並べて比較する<br>(長さや数で比較) |
| ■箱の縦・横・高さの違いに気づく | ▼箱を高く積み上げる<br>(高さで比較)                                                  |
| ■身体意識            | ▼積み上げたボックスの周りをグループ毎に手をつないで歩く                                           |
| ■社会性             |                                                                        |
| ■表面積             | ▼大きさを考えて順番に箱の中に入れる                                                     |

## 帆布ムーブメント

| 課題のねらい                                                                                                                          | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■言葉と動きの連合</p> <p>■創造性</p> <p>■属性の理解</p> <p>■物の操作</p> <p>■色で分類</p> <p>■規則性の理解</p> <p>■形の構成</p> <p>■属性の理解<br/>(色と形と大きさの分類)</p> | <p>▼色の指示を聞き、帆布の上に立ったり座ったりする</p> <p>▼フリームーブメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フローアーいっばいに帆布を広げ自由に遊ぶ</li> <li>・楽しい遊びを発表する</li> </ul> <p>▼見立て遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「赤いエプロン」の指示で赤い布を取り、エプロンに見立てる</li> </ul> <p>▼とばしっこゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな形にしたら遠くに飛ぶかを考えて帆布を投げる</li> </ul> <p>▼色別に帆布を集める</p> <p>▼色・形・方向性による規則性を考えて帆布を並べる</p> <p>▼見本を見て形を構成する</p> <p>▼帆布を集めて、見本と同じ形を作って片付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「黄色の三角」「青い小さい三角」「赤い長四角」等</li> </ul> |

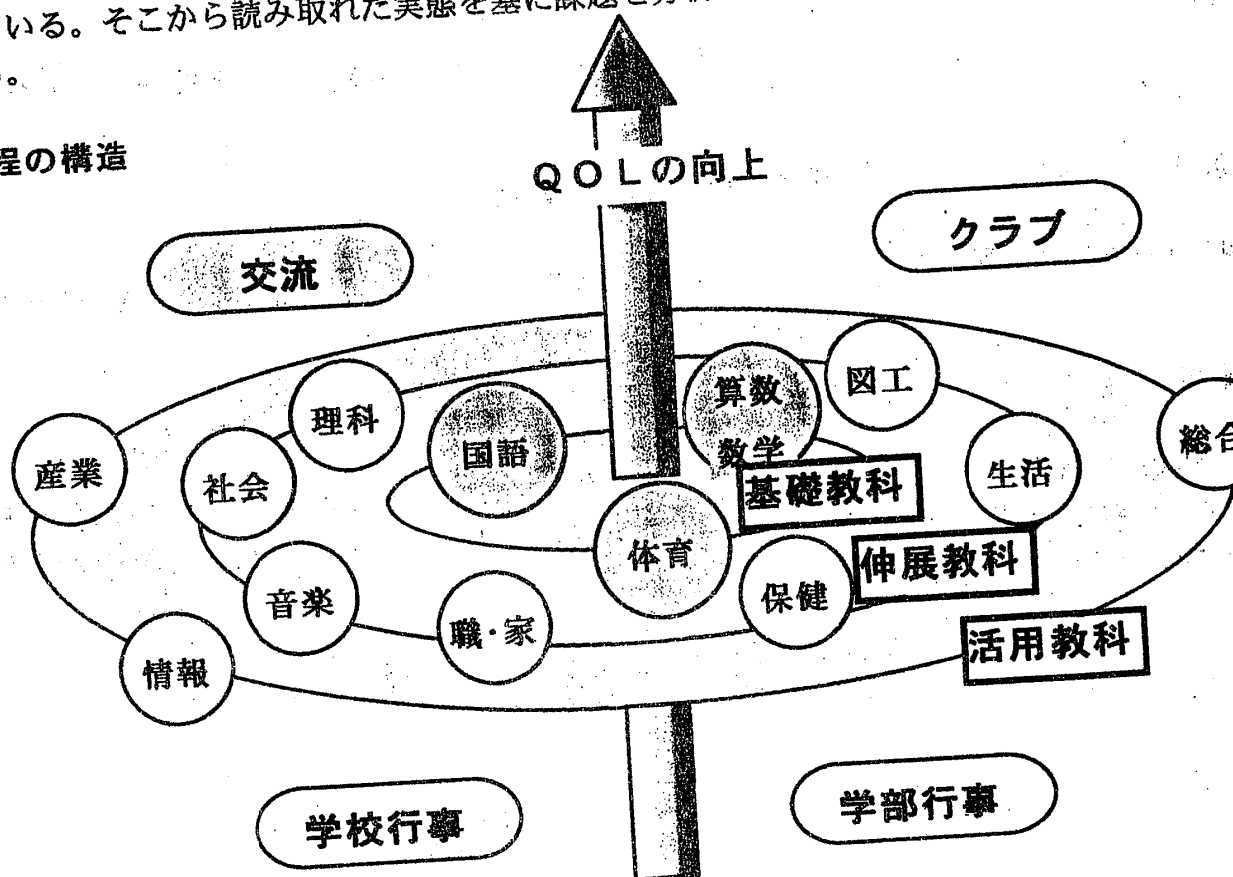
## 1 学校の概要と特徴ある教育課程について

本校は、小学部・中学部・高等部からなり、児童生徒数は79名、知的障害を持つ子ども達の学校である。開校以来20年間、一貫として「賢く豊かに生きる」ための教育をすすめてきた。子ども達の認知発達を促す事を基本にすえ、ムーブメント教育を取り入れ、教育活動に取り組んでいく。平成5年度にこれまでの教育活動を基本に教育課程の見直しをおこない、知的障害を持つ子ども達の認知発達を系統的、計画的に促していく一つの方法として教科中心の教育課程を導入した。

平成7年度より、個別教育計画に取り組みはじめた。個別教育計画が学校サイドの指導計画に終わらぬように、保護者や各関係機関からの情報も取り入れ、子ども達のQOL（生活の質）の充実をはかるという観点からも個別教育計画を見直し、教育に生かしている。さらに、子ども達がQOLの充実へむけて子ども達自身がつけていく力を生きる力として捉え研究をすすめてきた。子ども達が力強くそれぞれのQOLの充実に向けて進んでいってほしいと願っている。

個別教育計画を作成する際、児童生徒の実態を捉えるために様々なアセスメントを実施しているが、その一つとして、MEPA・MSTB・BCTを取り入れている。毎年4月に全校的取り組みで実施している。そこから読み取れた実態を基に課題を分析して、児童生徒一人ひとりの目標をたてている。

## 2 教育課程の構造



各教科がバラバラに存在するのではなく、教育課程を構造化し、有機的なつながりを持たせ導くことで、より計画的、系統的な教育がなされ、QOLの充実を目指す方向へ進んでいく。えていく。

### 3 本校の個別教育計画について

#### ①個別教育計画の基本的考え方

- 児童生徒の理解
- 保護者との密接な協力
- 組織的検討
- 教育課程の検討と教科間の有機的つながり
- 各学部の実情にあった IEP

#### ②個別教育計画の概要

##### ①本校の考えるQOL

|          |            |      |
|----------|------------|------|
| 情操       | 社会生活への適応   | 職業能力 |
| 認知       | 本校児童生徒のQOL | 自己実現 |
| 身辺処理生活技能 | 健康         | 余暇活動 |

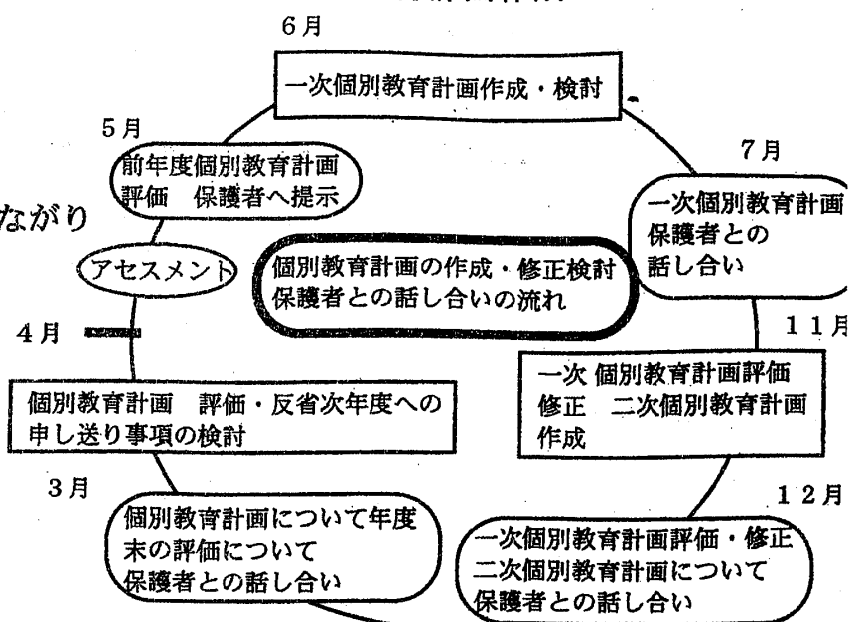
##### 小学部で考えるムーブメント教育

|                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
|                | 心を育てる<br>(自発性) |              |
| 考える力を育てる(問題解決) | 小学部のムーブメント     | 社会性を育てる(社会性) |
|                | 動きを育てる(身体意識)   |              |

##### 走行ムーブメント (ビデオ紹介)

|      |          |       |
|------|----------|-------|
| 社会性  | 時間空間     | 物の操作  |
| 身体意識 | 走行ムーブメント | 運動の属性 |
| 健康   | 感覚運動     | 環境適応  |

#### ③個別教育計画作成の流れ



##### 小学部高学年の日課

|   | 月    | 火    | 水    | 木    | 金    | 土    |
|---|------|------|------|------|------|------|
| 1 | 学級活動 | 学級活動 | 学級活動 | 学級活動 | 学級活動 | 学級活動 |
| 2 | 全体体育 | 全体体育 | 総合   | 全体体育 | 全体体育 | 総合   |
| 3 | 国語   | 算数   | 総合   | 算数   | 国語   | 総合   |
| 4 | 音楽   | 体育   | 総合   | 図工   | 生活   | 学級活動 |
|   | 給食   | 給食   | 給食   | 給食   | 給食   |      |
| 5 | 算数   | クラブ  | 学級活動 | 国語   | 学級活動 |      |
| 6 | 学級活動 | 学級活動 |      | 学級活動 |      |      |

□ はムーブメントを取り入れている時間

##### 6 国語・算数ムーブメント (ビデオ紹介) (国語・算数の個別学習と平行して行われている)

|      |             |      |
|------|-------------|------|
| 創造   | 国語科・算数科の内容  | 表現   |
| 問題解決 | 国語・算数ムーブメント | 社会性  |
| 身体意識 | 知覚運動        | 環境適応 |



# M E M O

実技；基本の運動

基本の運動は、遊具を使わないでもできるが、子どもの気持ちを向けるためにどこにも  
るような一般の物を上手に使って進めるとよい。

1)導入は、身近なロープ、プレーバンドなどで動きの楽しさを感覚させる。

(雰囲気に応じて音楽を使う)

(音楽は動きに勇気を与える)

①やさしい歩・走・跳の運動

自由に

ロケットの発射

自由に発射

②スキップ／ギャロップ／ホップ

自由に

手をつないで

やや難しい歩・走・跳の運動

この場でジャンプ

回転ジャンプ

くばやく立つ・座る

3) 必要に応じて他の道具を組み合わせる

## 2. 実技；操作運動、知覚運動

手の操作、足の操作を中心にムーブメント教育をする

1) リボンを使って

①手の運動、関節可動域、

②リボンを持って歩く・走る

音楽に合わせて動く

みんなでいろいろな移動

みんなで形を作って歩く

③リボンで楽しい集団演技

## 3. 実技；知覚運動マットでの運動

1) 自分の身体の発見（部位、働き）を動きの中で行う

2) 知覚運動としての使い方

3) 教科学習に結びつけての使い方

## 2. 実技；パラシュートでのムーブメント教育

パラシュートは大きな、小さな物、カラフルなもの様々なタイプがある。  
その目的に使うかによりその種類を決めるとよい。

### 1) パラシュートの膨らまし方

ドームを作る

サンフラワー

### 2) パラシュートと中型ボール

サーフィン

簡単なゲーム

### 3) ミュージック・ムーブメント

ファンタジーの世界を楽しむ

ここでの実技は、創造的ムーブメント／精神運動教育を進める。

精神運動教育のアプローチでは、運動のための教育というよりは、むしろ運動を通して育することを主眼とする。